様式3

学 校 番 号

22

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立八幡中央高等学校　定時制課程

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

評　価（総　合）

学校運営方針	本校のスクールミッションに基づき、スクールポリシーを踏まえた教育実践により、豊かな人間性を身につけ、自己の力で未来を切り拓き、地域や社会に広く信頼され、貢献できる生徒を育成する。

昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標
新型コロナウイルス感染症により教育計画の変更が必要となったが、指導内容や学校行事の工夫や生徒への個別対応に努めることで一定の目標は達成できた。 定時制に進学する生徒は、個別の教育支援を必要とする場合が多く、その数は増加傾向にある。 家庭状況や学習状況、発達段階などを踏まえ、外部との連携や教員間の密な情報共有、職員研修を行い、就学保障及び進路保障の充実を目指す。	1　きめ細やかな学習指導	基礎基本から学び直しを通じて学習意欲を喚起し、達成感を得ることができる学習指導の充実を図る。
	2　観点別学習評価の充実	思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を設けた上で、一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。
	3　安心して学ぶ環境づくり	多様性を認め、自他を尊重し、いじめや差別のない安心して学ぶことができる教育環境の保全に努める。
	4　豊かな人間性の向上	生徒主体の学校行事や体育的・文化的活動への積極的な参加を通じて自己肯定感や共感的人間関係を高める。
	5　キャリア発達の支援	発達段階に応じたキャリア教育を行い、主体的な進路選択を支援し、社会的自立と社会参画の力を育む。
	6　教員のICTスキルの向上	外部人材を活用しながら、授業でのICT活用促進を図り「わかる授業」の展開を目指す。また、生徒に情報処理検定等の受検を促す。

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	授業規律を確立し、効果ある授業を目指す。	教材の準備、机上の整理を徹底させ、授業に集中できる教室づくりに努める。				
		出席や成績の状況等、家庭・保護者と連絡をとり、連携して就学・修学に努める。				
	基礎・基本の学力を定着させるとともに、生徒のニーズに応じた学力の伸長を図る。	授業の内容・方法を工夫し、生徒の実態に応じた授業づくりに努める。				
		すべての授業で、生徒が主体的に探究できるような授業づくりを目指す。				
生徒指導	基本的生活習慣の確立を目標にした生徒指導に心がけ、安心して楽しく学べる学習環境を整備する。	登下校時の声かけを通して、生徒と教職員の相互理解に努める。				
		教職員間の情報交換を密に行い、いじめや差別を許さない環境作りに努める。				
	生徒会活動を通して、学校行事の企画力を育成すると共に豊かな人間性の涵養を目指す。	学校行事の活性化を通して、生徒の自尊意識の向上を目指す。				
		生徒会執行部生徒の自主性を育成し、生徒に寄り添う適切なアドバイスを心がける。				
進路指導	生徒の進路実現に向けた意識の向上を図り、主体的な自己実現力を育成する。	生徒の情報交換を積極的に行い、外部機関と連携した支援を継続的に行う。				
		資格試験の受験を促すとともに、受験生の合格率を高める。				
		生徒の発達段階に応じた進路講演会や進路ガイダンスなどを実施する。				
	在校生の就業機会を確保・促進する。	進路学習の履歴となるキャリアパスポートを充実させ、生徒の進路意識を高める。				
		アルバイト情報を提供するなどの就業意識を高める取組を継続する。				
研修・情報	校内外の研修による教職員の資質・能力の向上を図る。	電子黒板やChromebook等のICT機器を効果的に活用できるよう研修等を行う。				
		他の分掌とも連携をとり、計画的に研修の案内・実施をする。				
	電子黒板やChromebook等を含むICT機器の活用の推進を図る。	ICT支援員と連携し、授業等でのICT機器の活用推進を図る。				
		すべての生徒への連絡手段としてClassroomを活用する。				
庶務・図書	学校環境の整備・充実を図る。	全日制・定時制との施設共用を円滑に行い、教育活動の充実を図る。				
		奨学金等の分かりやすい案内に努め、就学並びに修学の保障に努める。				
	生徒の読書活動増進と図書館利用の普及を図る。	購入図書希望調査を学期に1回行うとともに、新刊案内を行う。				
		生徒が本に触れやすい政策を検討する。				
保健	心身の健康に関する指導の充実を図る。	健康診断等を通して、自身の健康に関心をもち自己管理しようとする態度の育成を図る。				
		「ほけんだより」等を定期的に発行し、心身の健康への意識を高める。				
	健康相談活動の充実を図る。	生徒の安心・安全につながるよう、生徒のプライバシーに配慮しながら情報交換を積極的に行う。				
		SCやSSW等と連携した上で、必要な教育的支援を継続して行う。				
		各分掌と連携し、生徒が安心して相談できる環境づくりに努める。				
人権同和教育	「安心して通える学校」づくりを促進する。	生徒の人権が守られる教育環境の整備に努める。				
		自己肯定感や自尊感情を育て、人権意識の涵養を目指す。				
		特設授業にかぎらず、あらゆる教育活動を通して生徒の人権感覚を育む。				
	人権教育に関する積極的な職員研修を実施する。	人権教育に関する各種研修会への職員の積極的な参加を促す。				
		人権に関する研修会の情報の周知を行い、職員が参加できる環境を整える。				
		研修成果を職員間で共有し、人権感覚の涵養に努める。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

学校関係者評価

評　価（総　合）

自己評価は

A ： 適切である

B ： 概ね適切である

C ： やや適切である

D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目以外のものに関する意見